

令和3年度 兵庫県立大学附属高等学校 学校評価

本年度の実践項目

ア	総合科学科としての特色ある教育課程を編成し、生徒の個性を生かした主体的な学びを促すことにより基礎・基本となる知識、能力、態度の育成を図る。
イ	授業研究や定期的な授業評価を通して、不断の授業改善を図ると共に、教科指導力のさらなる向上に取り組む。
ウ	多様で高度な学習機会を提供する高大連携教育プログラムの実践を通して、創造力豊かな生徒の育成を図る。
エ	少人数教育を通して、生徒一人ひとりの能力と個性の伸長を図る。
オ	心の触れ合いを重視した生徒指導を行うことで、思いやりの心を持つ、こころ豊かな人間の育成を図る。
カ	変化の激しい時代の中、多様な価値を認め、共に生きる社会の実現をめざす実践的な人権教育や防災教育を行う。

5段階評価

- 5：達成できた
- 4：どちらかといえば達成できた
- 3：どちらかといえば達成できなかった
- 2：達成できなかった
- 1：わからない

番号	項目内容	評価指標	実践項目との対応	関連部署	2021年度	昨年度
1	自ら学ぶ姿勢を育てるとともに、豊かな国際感覚と幅広い学術研究に対する関心を高める。	生徒は学習の意義を理解し、主体的に学習に取り組んでいる。	ア	学年・進路・教務	4.2	4
2	お互いの存在を尊重し、個々を高めあう学年集団を形成する。	生徒は互いに思いやりと敬意をもち、心豊かな学校生活を送ることができている。	オ	学年・生徒指導	4.3	4.3
3	キャリア教育の充実と高い目標に挑戦する心を育てる。	生徒は進路講演会や面談を通じて、自分の適性や進路について考えることができている。	ア	学年・進路	4.3	4.1
4	野外活動を通して、豊かな人間関係を構築する。	野外活動は、1年生生徒の人間関係の形成に役立っている。	オ	1年・総務	4.1	3.1
5	研修旅行等を通して、豊かな自然観を養う。	研修旅行等を通じて、2年生生徒は豊かな自然観を養うことができている。	ア	2年・総務	4.2	3
6	自己実現に向けて、生徒が主体的・継続的に努力できるように指導を行う。	3年生に対する大学受験指導体制は、本校生徒にとって適切である。	ア	3年・進路	4.4	4
7	附属中学校と共同して学校行事などを構成する。	附属中学校と、学校行事で効果的な共同ができている。	オ	総務・生徒指導	4.0	3.6
8	学校行事において、生徒が主体的に取り組める環境づくりをする。	生徒一人一人が学校行事の意義を理解し、主体的に行動できている。	オ	総務・生徒指導	4.4	4
9	防災意識をもち、身のまわりの安全・安心を確立できるような体制作りを心がける。	防災訓練、防災LHR などを通じて、生徒の日常生活に防災意識が根付いている。	カ	総務・保健	4.2	4.1
10	不断の授業改善を図ると共に、教科指導力のさらなる向上に取り組む。	教員は、授業アンケートや公開授業を実施し、結果を授業改善に反映させることができている。	イ	学年・教務	4.4	4.2
11	附属中学校との連絡を密にし、中高一貫教育の利点を活かしたクラス編成、教育課程について検討する。	設置した新コースは、中高一貫教育の利点を活かそうとしている。	アイエ	教務・各教科	3.9	3.9
12	生徒の個性を活かした主体的な学びを促すことにより基礎・基本となる知識、能力、態度の育成を図る。	教員は、個々の生徒に応じたきめ細かな学習指導ができている。	エ	教務・進路	4.3	4.1
13	新教育課程の実施に向けて、総合科学科としての特色ある教育課程の編成に努める。	新教育課程は理数に関する学科として特色を出そうとして編成できている。	アウ	教務・各教科	4.2	4
14	高大連携授業を通して、多様な社会で生きる力を養うことを目指す。	高大連携授業の内容は、本校の生徒にとって有効である。	ウ	教務・進路	4.3	3.9
15	知識基盤社会に対応する職業観を身につけ、自ら職業選択ができるよう、進路意識の向上を図る。	卒業生や社会人による職業体験談は、生徒にとって有効である。	ア	学年・進路	4.3	4
16		生徒に配付した進路の手引や各種進路資料は充実した内容である。	ア	学年・進路	4.3	4
17	学習習慣の定着と基礎学力の習得を目指し、更なる学力の向上とその確立を図る。	補習の内容や補習期間は適切である。	ア	学年・進路	4.1	4.2
18	生徒の問題解決能力の素養となる書籍を多く紹介する。	「おすすめ本・話題の本」の紹介は、生徒の読書意欲を喚起している。	ア	進路・各教科	3.8	3.7
19	学校生活や社会生活のルールとマナーを守り規範意識を高めると共に、相手を思いやる態度を養う。	生徒は、学校生活でルールやマナーを守っている。	オ	学年・生徒指導	4.3	4
20		生徒は、通学時のルールやマナーを守っている。	オ	学年・生徒指導	4.2	3.8
21	学校いじめ防止基本方針にもとづく指導の充実を図る。	いじめアンケート調査を実施し、いじめを未然防止・早期発見・早期対応できる体制が整備できている。	オ	生徒指導・保健	4.5	4.3
22	生徒が自ら考え健康管理が図れるよう環境を整える。	救急救命講習を通じて、事故や災害時に対処できる能力を身につけている。	カ	保健	4.3	4.2
23	生活のリズムを整え、心身の健康が保てるような環境作りを図る。	生徒の日常生活リズムに乱れはない。	オ	学年・保健	4.1	3.8
24		感染症予防対策は適切に行われている。	オ	保健	4.2	4.3
25	学校環境を整え、生徒に美化活動を啓発する。	教室・トイレの清掃は、きちんと実施できている。	オ	保健	4.4	4.1
26		安全点検の結果は、施設・設備の整備に適切に反映されている。	オ	総務・保健	4.1	4.1
27	職員、舎監、保護者で連携し、寮生の生活全般についてサポートするとともに、寮の規則を遵守する態度、共生・協働の態度を養う。	寮の規則は守られている。	オ	寄宿舎	4.1	4.1
28		寮の行事・清掃等では、各委員を中心に積極的に行動できている。	オ		4.3	4.2
29		寮では孤立した生徒はいない。	オ		4.0	3.9
30	学習室の利用、チューター制度などの選択肢を用意し、寮生が自主的に学習に取り組めるようにする。	寮では落ち着いて学習に取り組める環境が整っている。	ア		4.4	4
31	寮生集会や防災訓練を通じて、安心・安全意識の啓発を図る。	安全に寮生活を送れている。	カ		4.4	4.3

【自由記述】

現場の意見を取り入れるべき。  
 生徒が姫路へ流出していくなか、本校のミッションを明確にすべき。生徒の自由・自立を尊重しつつ、教師は常に進路の実現・実践を考えないといけないと思う。  
 パイオニアとしてのユニークさに欠けるし、他の進学校の後追いで個性がない。授業時間増や習熟度別授業が本当に狭義の学力の向上につながるのかなど教育活動に関してエビデンスを取って検証すべき。感覚論で学校の多くのことが決められている。